

ラジオ塔

ラジオ放送の黎明期には、個人で受信機を持つ家庭はほとんどなく、人々はこのような屋外のスピーカー塔の周りに集まった。日本初の公共ラジオ塔は、1930年に大阪の天王寺区に設置されたと言われている。1943年までには、全国の多くの場所に約450基のラジオ塔があったと考えられる。そのデザインは様々だったが、多くはここに見られるような伝統的な日本の燈籠に似たものだった。

ほとんどのラジオ塔は常時稼働しているわけはなかったが、AMラジオを10分間聞けるボタンが装備されていた。人気があったのは野球の試合や相撲放送だった。野外ラジオはグループ運動にも理想的であり、これらのラジオ放送で、朝早くから毎日数回流される短い健康体操番組を聞くこともできた。この体操番組は、いまでも毎日午前6時30分と午前5時50分に大阪城中央広場で流され、地元住民のグループが集まり毎日ラジオ体操を行っている。